

特集 夜間問題

駒場祭に企画参加する皆さん、

夜間居残りしたいですか？

例年、駒場祭委員会（以下KFC）は参加企画に駒場祭の準備日と当日の1、2日目の夜間、20時 - 8時に、資材の保護、翌日の準備などを名目として特別に申請を受け付け、キャンパス内に居残ることを認めてきました。

アンケートによると、企画参加者が11月の寒い中夜間居残りをする理由は、

- 1 資材保護 71.3%
- 2 翌日の準備 27.1%
- 3 親睦を深める 48.8%

だそうです。屋外の模擬店は3が多く、OB&OGが集まる場として利用されることもあり、祭にかこつけてのみまくる企画が存在するため毎年問題が絶えません。（詳しくはp.4以降を参照のこと）

そして、50期に一度夜間易残り禁止がKFCによって決定されてから夜間問題は駒場祭の焦点となってきました。

今期（53期）までの経緯を下に示します。

50期

KFCにより一度夜間居残り禁止が決定される。

が、企画の意見を重視し、厳重な「自主警備案」（夜間居残りをする企画によって夜間の警備を行う）のもと夜間居残りを断行。

夜間居残り禁止問題が大きな波紋を投げかけて企画の意識向上がなされたのか、重大事件は起らず。（といっても問題は起こっています。）

51期

50期と同様の警備案で夜間居残りが実施されたが、余りにもひどい事件が乱発し、駒場祭当日に臨時企画代表者会議が開かれる。

52期

51期で「自主警備案」が崩壊したため、KFCが夜間禁酒を決定。

社会的にかなり大きな反響があり、当日には大きな問題も起こらなかったが、夜間禁酒になった経緯、意義を理解せず飲酒を行う企画があった。

重大事件が起こらなかったとはいえ、夜間に対する意識の低い一部の企画により夜間の治安が脅かされる可能性は依然として存在した。

駒場の音

このような経緯を経て、夜間問題は今期でも大きな問題となっています。
夜間問題は少数の企画が問題を起こすだけで致命的な事態に発展してしまいます。
すべての企画をKFCの委員が管理するのでは限界があります。

そのため、**夜間問題の解決には、KFCと企画間の管理する側、される側という関係を崩す必要がある**と考えています。

KFCの委員は皆さんと同じ学生です。**同じ学生に管理されているなんて変だと思いませんか？**我々は企画間の中立的存在として調整役に徹し、各企画は自己管理の下行動するのが本来の姿でしょう。

もはや、**夜間居残りをしたいのなら、夜間居残りをしたい企画間で話し合い、自己管理と企画同士の協力の下、実現可能な夜間問題対策を考え、責任を持って遵守していただくしかない**でしょう。

それだけ学生の意識が高く、駒場祭の夜間を守ろうという意志がなければ、学生が夜間キャンパスを借りることは許されません。

学部は「原則としては夜間居残りは認めない」とまで言っています。

次のページから歴代の夜間問題を掲載していますので参考にして友達同士、サークル同士で夜間問題について考えてみてください。

夜間問題一覧

毎年問題を繰り返し起こしているところは夜間居残りをを行っている企画の中で、ごく一部であり、それ以外の企画についてはきわめて夜間の問題に対して意識が高く、いわば夜間の問題に関しては”被害者”である企画が大半のようです。

一部の企画が、夜間の問題について認識が甘く、また夜間居残れることを当然のものとして毎年慣例で問題行為を行っているとするれば、それは企画実行のためやむを得ず居残りをしている企画の企画実行を妨げる行為であり、とても許されるものではありません。特定団体だけ夜間居残りを認めないといったことも、当然考えられてくることでしょう。実際に”被害”を受けている良識のある企画からは、駒場祭委員会に対して 〇〇の団体の夜間居残りを止めさせてくれ、といった要請が来ています。

企画の間でも、夜間居残りに対しての意識にむらがあるようですが、企画内においても夜間問題に対しての意識にむらがあるようです。企画内における認識のずれは何も夜間居残りに限ったことではなく、企画責任者はよく理解しているが、それ以外の企画構成員は理解していない、ということはよくあることですが、特に夜間に関しては企画において昼のメンバーと夜のメンバーが入れ替わってしまうことが多いためか、その傾向がなお顕著であるように思われます。

夜間居残りをする企画には、自分の企画の構成員として居残る人の行動にたいして責任が求められます。それが無理なのであれば、夜間居残り制度は成立しえません。サークルで企画責任者や夜間責任者をやっているものは、夜間居残りに対してよく理解しているが、先輩やOB、他大学の学生に対して統制が効かず、事情を理解していないそれらの人が問題を起こすというケースが大半です。企画責任者・夜間責任者は問題をよくわかってらっしゃって、しかも企画内のあらゆる責任・負担を負わされているわけですから、ある意味”被害者”であることには同情はいたしますが、団体として統制の取れた行動ができないということ自体が問題なのであり、そのような団体は夜間居残り、しいては企画参加をもできなくなりかねないということ、団体内でよく周知していただきたいものです。

歴代夜間問題 DataBase

< 4 6 期 >

非常ベルいたずら

3日間の居残りでは7号館では計2回、1号館で計6回の非常ベルが鳴らされた。非常ベルは、一旦鳴り出したら専門の業者でなければ復旧できず、つまり私たちはベルを止めることはできるが、その後は実際に火災が起きててもベルはならないのである。したがって、いずれの夜も鳴らさなければならぬときに非常ベルを鳴らせない状態であった。

1号館屋上でのバーベキュー

新館への侵入

夜間居残りは新館と呼ばれる11号館、12号館、13号館ではできないことになっているため駒場祭委員会が毎晩、新館の鍵を閉めている。しかし、駒場祭3日目の朝に駒場祭委員が11号館をあけたところ、テニスサークルが使用していた部屋のドアが蹴破られていたという事件。

暴力事件

3日目の総長に正門前で2対1の酔っ払い同士の喧嘩があり、1人の方の酔っ払いが頭部に負傷し、駒場祭委員会本部で応急処置をした後病院に運ばれた。加害者の2人組は怪我を負わせた立ち去った。3日目の夜に駒場寮中寮前で運動会サークルとテニスサークルの間でいざこざがあった。駒場祭委員が駆けつけたが、しばらく一触即発の状態が続いた。

酔いつぶれた人たち

場祭委員会に担ぎこまれた人を含めて、酔いつぶれて屋外に倒れたままだった人たちは多数いた。

< 4 7 期 >

救急車事件

例年よりも多くの救急車の出動をお願いしなければならなかった。3日間のうちに、計4回救急車を呼んだ。順に簡単に説明していく。11月22日午前2時36分に新館前の謎のオブジェにぶつかり頭を打った人がいたため、裏門から呼んだ。外傷のため左耳の後ろを2針縫ったが精密検査の結果異常は認められなかったので治療の後戻ってきた。11月22日午後11時45分頃10号館脳本部プレハブ前に泥酔者がいたため救急車を要請した。11月23日午前0時45分頃7号館1階廊下に泥酔者がおり、トイレで後頭部を強く打ち意識がはっきりしない様子だったため、裏門から救急車を呼んだ。11月23日午前1時10分頃、1号館内で夜間居残りをしていた企画が直接救急車を呼んだ。病院へ運び込まれた人はかなり酔っていた。念のため点滴を打ち、入院した。このように立て続けに救急車を呼ばねばならず、最後には救急隊員の方からお叱りをうけた。

非常ベル事件

7号館前にある屋外トイレの非常ベルが合わせて5回鳴った。

新館への侵入

1日目の夜に、12号館と13号館に侵入した人たちがいた。

屋外無人テントの破壊

夜間居残りをしていなかった企画のテントが、たたまれていなかったために壊されてしまった。また、テントだけでなく掲示板や立て看も壊された。

歴代夜間問題 DataBase

泥酔者

駒場祭委員会が路上に寝ている泥酔者を十数名見つけ、それぞれ対応した。

< 4 8 期 >

1号館夜間封鎖

1月22日22時23分頃、守衛所の警報ベルがなった。立ち入り禁止となっている区域への侵入者を報知する警報だった。通報を受けた学生課職員が現場に急行したところ、区域内を通行している学生を発見した。この立ち入り禁止区域（1号館地下入り口）のドアの錠前がこじ開けられ、ドアが破壊されていた。学部側はこれを非常に重い事態であると判断し、現場で対応した学生課職員及び委員により、同日夜に関しては、1号館の完全閉鎖を行うべきであるという結論を緊急に下した。この事実は、直ちに総会中の駒場祭委員会に伝えられた。その後、当委員会、学生課職員、守衛の3者により、綿密な現場検証を行った結果、同区域内のドアはノブのねじが外され、ノブを支える板がバールで曲げられた上、シリンダー錠が引き抜かれるなど人為的に破壊された形跡があった。また、当該学生の事情聴取を行った結果、複数の学生が同区域内に侵入していたことが明らかになった。同日22時45分、このような経緯を受けて、同様の事件の再発を防ぐには、今回の駒場祭において取られた以上の警備計画を案出したり各企画に告知したりする時間もない以上、同日夜の1号館内の居残りを禁止し、建物の施錠を行う以外にないという決定が、委員会総会において下された。この後1号館企画に対して委員が総動員体制で説得に回ったが、企画からは事情説明を求める声が高かった。

救急車

駒場祭期間中を通して、救急車は4回5台きた。11/23夕方（2台）これは武道系運動会S部の人間が2人行列をしながらお酒を飲んでアル中になり、危険な状態になったため、救急車を駒場祭委員会を通じて呼んだもの。11/23早朝に1回、これはグラウンドに倒れて冷たくなっていた泥酔者を見かねた人間が、わざわざ救急車を呼んだもの。11/23夜に2回きたのは、1号館内の企画の人間が泥酔状態になったので企画が救急車を呼んでしまった。この時、「駒場祭委員会のほうに連絡してください」と言っていたにもかかわらず連絡がなかったために、正門を開けるのが送れ、守衛さんに多大なる迷惑をかけた。このように、泥酔者を出したことについて（昨年度からの蓄積もあり）目黒消防署のほうから抗議文がきている。

施設破壊・汚損関係

以下のような施設破壊が駒場祭委員会と学生課で確認された。

- ・1号館立ち入り禁止区域入り口のドア
- ・13号館入り口のガラス
- ・トレーニング体育館の入り口のガラス
- ・1108の天井（昼間と思われる）
- ・108のドアの小さなガラス
- ・第1体育館入り口のガラス（ひび）
- ・13号館入り口の男子トイレの便座
- ・13号館の落書き（落書きは女子高生チックなもの）
- ・屋外トイレの電球カバー（1個は落書き）

歴代夜間問題 DataBase

・13号館3階及び4階にあがるところの非常シャッターが半分下りていた
一号館の机・椅子が屋外に放置されていた。

消火器によるいたずら

以下のような場所で消火器を使った痕跡が残されていた。

- ・矢内原門に3本・900番入り口のアーケード・184
- ・企画のテントに4本・寮から矢内原公園にかけての道路

その他の事件

以下のような事件がおきました。

- ・銀杏並木の木に自転車が引っかかっていた。
- ・企画のテントに花火を打ち込まれた。
- ・寮前で焚き火があった。
- ・鮎多数。

< 49期 >

某テニスサークルと某武道部の抗争

初日の夜、テニスサークルの企画の構成員と武道部の企画の構成員との間に揉め事が起こり、武道部の構成員の眼鏡が壊れていた。テニスサークルの側は、サークルの女性に対し武道部の企画の構成員が下品な行為を働いたため、それを取り除こうとしたと主張。武道部の側は、テニスサークルの企画の構成員が一方向的に攻撃してきたと主張。壊れた眼鏡に関する補償問題で決裂し、2日目の夜にもう一度話し合いの場を持つこととなる。2日目の夜、駒場祭委員立会いの下、学生会館で話し合いがもたれたが、両団体は駒場祭委員が立ち会う必要はないと判断したため、委員は立ち去った。しかしその後、なぜか「決闘」になってしまい、テニスサークル側が攻撃を受け、委員会本部に退避。坂下門にタクシーを呼んで帰宅しようとするも、武道部側に尾行され学生課へ逃げ込む。武道部側が学生課の周りに潜んでいたため、帰宅不能になり学生課で泊まるまでになった。

放火未遂事件

委員会所有の立て看板に火をつけている人間をある学生が目撃。委員が駆けつけたところ、放火犯と見られる仲間が多数おり、その場で事情聴取は不可能を判断。目撃証言による放火容疑者を本部まで連行した。するとその仲間が本部まで帯同し、事情聴取は不当だとして、窓枠を揺さぶる、本部に入ろうとする、消火器を噴霧する、などの妨害を図った。それ以上の事情聴取が困難であり、また放火の容疑者をはじめ、彼らが企画外の人間であったため、事情聴取をあきらめ、即刻構内から出るように勧告。しばらく構内にとどまっていたが、その後インタープラザで焚き火をしているのが発見された。そのため、委員が構内から出るように勧告。構外に出るまでついて行って退去させ、一応問題は解決した。

テント破壊未遂

テント破壊をしようとしている人間を、ある委員が未然に発見し捕らえた。

12号館の鍵が開いている事件

11、12、13号館は夜間居残りが禁止されているが、その12号館の鍵が何度となく開いていて、その中に人がいた事件。夜警の委員で人を出し、鍵を閉めた。

歴代夜間問題 DataBase

酔っ払い

担架で山手通りまで運んで、タクシーに乗せるなどした。

特殊な負傷

歯を折って、歯科の救急病院を探した。東大病院に行ってもらうしかなかった。

< 50期 >

一度KFCによって夜間居残り禁止が決定されたが、後に方針を変更。

自主警備案を初めて採用し、夜間居残りを断行した。

企画の大きな責任と負担の上で、多くの警備対策を行ったことや、一旦の夜間居残り原則中止方針の後、問題が大きくクローズアップされたことで一時的に自制が働いたようで、例年ほどの大きな問題はなかった。が、「飲酒のともなう事故・トラブル」及び「火気管理の不徹底」などは多数発生した。

また、

- ・火気の使用が発見されたため、駒場祭委員が注意をしたが、その後に再度火気の使用が発見されたため、その企画のそれ以降の夜間居残りを中止とした。
- ・銀杏並木で暴れ、複数の企画に対して椅子を振り回す、喧嘩の挑発をするなどの危険行為を行った人物がいた。
- ・入館規制が行われていた一号館の窓からの出入りが見られた。駒場祭委員の注意にもかかわらず、何度も出入りを行う企画もあった。
- ・裸で走る、暴れる、大声を出す、1号館前ステージへ上る、企画のテント等資材にいたずらを行うといった行為を行う集団がいた。
- ・消火器の噴霧がいくつかあった。いたずらなどの目的外使用もあった。
- ・大きな音を出しながら構内を歩き回っていた集団がいた。
- ・学生課階段下で、集会（コンパ）を行っている集団がいた。駒場祭委員が注意を行ったが、止める気配がなかった。翌朝になり、騒ぎが収まった後、ごみがそのまま放置されていた。
- ・721教室（2階）窓から落下した人がいた。
- ・楽器の演奏や音楽をかけるなどにより、激しい騒音が発生することがあった。
- ・駒場祭委員会本部に、泥酔者が発生し、危険な状態なのでどうしたらよいかという連絡があった。駒場祭委員会ではタクシーで救急病院まで行ってもらおうとしたが、タクシー会社に乗車拒否をされた。そのため、駒場祭委員会では救急に連絡し、救急車を裏門まで呼んだ。
- ・1号館内で、ガラスを割った企画があった。その企画は、ひどい泥酔の上、大声を出す、嘔吐するなどの行為により、1号館内の複数の企画から駒場祭委員会に被害の報告があった。
- ・泥酔した状態で、なお飲酒を続けながら、騒ぎつつ集団で構内を徘徊する企画があった。この企画は、900番講堂前ロータリーで立て看板の破壊行為も行っていたことが確認されている。
- ・駒場寮祭付近において、ガラスを割り、これで手を切った人がいた。出血がひどいため病院へ運ぶ必要があるとの通報が駒場祭委員会にあったため、山手通りからタクシーで救急病院に行ってもらった。

歴代夜間問題 DataBase

- ・屋外トイレの便座破損・紛失
- ・119扉の右下のガラスが割れていた。
- ・生協食堂横広場や集積場へのごみの不法投棄。

< 5 1 期 >

50期と同じく自主警備案を採用したが、・委員会だけで対処できない問題も含め重大事件が多発。1日目に緊急企画代表者会議が行われた。

委員会だけで対処できない事件

代表的な例が救急車ですが、後で説明しますB部の事例のように汚したときの事情を把握しているものがないと、事実関係の把握のために警察が出動することにもなり、警察の入構に立ち会わないといけない学部・学生課・学生自治会・当委員会・学生会館委員会などにも迷惑をかけることとなります。また、Aサークルの事件に関しては、火にまつわる事件なので消防の方にも出動していただくことになりました。

これらの事件は、夜間居残りだけでなく駒場祭全体の中止にもつながりかねません。

緊急企画代表者会議に至る経緯

今年の駒場祭で、駒場祭委員会による警備の限界が露呈したのは、23日の夜の事件に象徴されているといえます。まだ駒場祭が開始していない前日準備の夜であるにもかかわらず、同時間帯に2つの重大な事件が発生しました。その結果、駒場祭1日目にあたる24日の午後に緊急企画代表者会議を開催することになってしまいました。その経緯となった事件について説明します。

事件1：Aサークルの事件

AサークルのメンバーのCが同じくAのメンバーのDの下腹部に酒（アルコール度数96%のもの）と整髪料をかけた。そこに、同サークル構成員のEがライターで故意に火をつけた。その火がDの衣服に燃え移った。Dは辺りを走り回り、その後地面に倒れこんだ。Dは全治1ヶ月とのことである。

Aサークルの企画は、昼夜問わず企画中止とし、チケットの払い戻しのみ許可した。

事件2：B部の事件

B部のOBがキャンパスプラザB棟で泥酔し、転倒して流血しているのが発見され、B部の企画責任者が駒場祭委員会の許可を得ずに勝手に救急車を呼び、現場が混乱した。救急退院が、事故の現場を目撃した人がいないということなので警察に連絡して現場を確認するよう要請していたので、それに立ち会うために、B部企画責任者、学生課職員、駒場祭委員、学生自治会常任委員などが待機したが、最終的に警察の入構及び現場検証は行われなかった。

歴代夜間問題 DataBase

< 5 2 期 >

初めて夜間禁酒案が採用された。

1、総括

今年は近年続いた夜間警備案が実効力がないと判断し、問題の起こる原因となる酒を禁止することで、夜間居残りを実施しました。例年とは違い、重大な問題は起きなかったものの、反省点は多々ありました。

禁酒制度

駒場祭委員会が禁酒を大々的に広報したにもかかわらず、夜間に飲酒を行う企画がありました。そういった企画に対しては酒類没収など厳しく対処しました。禁酒案になった経緯が理解されず非常に残念でしたが、飲酒によって引き起こされた重大な問題はありませんでした。

自警団・早朝清掃要員

今年も資材の保護と定点監視を目的に自警団要員を企画から出してもらい、8箇所自警団ポイントを設置しました。また、早朝清掃要員には駒場の清掃を行ってもらいました。この二つに関しては大多数の企画が出席され、夜間居残りに対する意識及び責任感の高さには頭が下がる思いでした。

ただ、自警団や早朝清掃要員をさぼった企画は少数ながらありました。夜間居残りの最大の目的は資材の保護と翌日の準備であるので、資材を定点監視し夜間の治安を維持するために自警団を設置しました。また、夜間にゴミが出るのでそれでは昼間の企画実行に支障をきたすので、早朝清掃要員で清掃しました。つまり、どちらも夜間だけではなく昼間の企画実行を保護するものであるからこそ、企画のかたにも負担してもらったわけですので、それをさぼる企画に関してはそういう意識が低いと考えざるをえません。

その他

騒音に関する近隣住民からの苦情はありませんでした。ですが、5, 7号館の企画の音出しに関しては、目に余るものがあります。苦情が出なければやってよいというわけではないので、夜間は音出しはできないことを来年に引き継いでください。

駒場祭の企画構成員ではない人間が泥酔して救急車で運ばれましたが、特に問題はありませんでした。また企画の方が病気・怪我をして救急車で運ばれたことはありませんでした。

火気使用も目立ちましたが、基本的に駒場祭期間中だけ特別に火気を使用してもいいわけですから、企画実行時間ではない夜間は火気使用禁止です。

東京大学生と思われる人間が立看を破壊していましたが、そういった学園祭を妨害する行為に対しては当委員会としても甚だ遺憾に感じています。

委員の声

本年度のステージを担当する桜井です。まだする仕事がありません状態、あっても伊藤君に頼っているばかりという無能&怠け者です。聞くところによると、昨年度のステージ係が当日に逃亡したとのことなので、さすがにそこまでいかないぐらいには努力して働こうと思っております。

桜井直樹

本年度、田中良さんは、校内装飾 (DECO) からパンフレット広告 (AD)、システムまでさまざまな仕事を一手に引き受けています。駒場祭の雰囲気を作り出すのに重要な役割を果たす DECO では、彼のセンスを生かし素晴らしい物を作り上げてくれることでしょうか。11月の駒場祭当日どのような装飾がなされるか、今から楽しみです。システムに関しては現在猛勉強中ということらしいです。駒祭委員会の情報関係を一手に担う重要な存在になるはずですよ。

最近の彼は、A103 に住み着いてたくさんの仕事をこなしているようです。駒場祭までに体を壊したりすることのないよう祈りたいです。

青山翔吾からみた田中良

本年度の Pack 担当は、環境三四郎さんとの兼部でひーひー言っている青山さんです。三四郎さんと兼部している数少ない人材ということで、文句なしの Pack 担当です。Pack 担当は模擬店などの企画で使われる Pack の仕入れや準備を担当する部局です。今年の Pack の値下げ、数決めなど必死に働いてくれることでしょうか。

そんな彼、最近毎日のように委員会室にきて色々仕事をこなしてくれています。先日も放課後必死に立て看板製作を手伝ってくれていました。普段は無口な彼ですが、企画の皆さんとの間では雄弁に Pack を語ってくれる (?) ことでしょうか。A103 に住み着いてしまわないことをお祈りします。

田中良からみた青山翔吾

御意見募集！

夜間居残りに対する皆さんの意見を募集します。

企画による自主的な夜間問題の解決が可能かどうか、企画参加する皆さんの意見が必要です。

kfc@a103.net宛てにメールを送るか、直接キャンパスプラザA103まで持ってきてください。

有効な意見は次号「駒場の音」にて紹介させていただきます。

第1回企画代表者会議

6/29(土)13:30 ~

7/1 (月)18:30 ~

@ 1 1 0 6 教室

*両日とも内容は同じです。どちらか一方に出席してください。

駒場祭に参加する団体の代表者の方は必ず出席してください。